

# 暮らしの中にスポーツを 「スポーツ・健康日本一」 を目指す！

## Bグループ

2005年度早稲田大学大隈記念大学院  
公共経営研究科夏季集中講座  
「自治体経営と地域自立・三次市」

# マニフェスト 文化都市づくり宣言 ～スポーツ大国「みよし」の創造～

- **スポーツの普及・促進**  
平成16年度中にスポーツ振興計画を策定
- **スポーツアカデミーの創設**  
郷土出身プロ野球選手による野球教室開催
- **生涯スポーツの振興**  
平成17年度から、総合型スポーツクラブの  
設立支援制度及び、スポーツリーダーバンク制度創  
設
- **スポーツイベントの展開**  
インターハイロードレース、ソフトバレー等を開催

# 三次のスポーツ事業の実施状況(1)

## 実施済み、実施中のもの

- 施設の整備、改善、利用促進  
夜間照明、体育館などの修繕  
中学生までの施設利用無料化
- スポーツ大会・事業の開催、支援  
自転車ロードレース・ソフトバレー交流大会など
- 補助金などの交付  
様々な種類の競技大会、  
プロ野球選手による野球教室、  
B & G海洋センター事業など

# 三次のスポーツ事業の実施状況(2)

## 今後の活動が期待されるもの

- 三次スポーツ振興計画の本格的実施  
昨年度に策定。本年度から開始。
- 総合型地域スポーツクラブの設立  
選考事例視察、クラブサミットへの参加、  
自治組織連合会への説明などを終え、  
本年度中にまず1つを立ち上げる予定

# みよしスポーツ振興21

## ● 目標

成人の週1回以上のスポーツ実施率の向上

(37.2% → 70%)

総合型地域スポーツクラブの設立 (0 → 19クラブ)

児童生徒の体力運動能力の向上

(種目の割合 : 44.1% → 100%)

## ● 基本施策

生涯スポーツの振興

健康・体力づくりとしてのスポーツ振興

競技スポーツの振興

学校における体育・スポーツの振興

総合型地域スポーツクラブの育成、強化

# スポーツ振興21 具体的な取り組み

- 施設などの整備、充実  
テニスコート、野球場の建設
- 指導者の育成、確保  
地域への派遣、スポーツ医科学の導入
- 情報や機会等の提供  
インターネット、ケーブルテレビの活用
- 団体などの育成、強化  
総合型地域クラブの支援、  
体育協会・スポーツ少年団の強化など



# 私たちの提案

- 国際交流を活かしたスポーツ振興
- 総合型地域スポーツクラブの設立に向けて  
～ 各中学校を拠点に～
- クラブチームの誘致・新設  
～ スポーツに対する意識向上～

# ドイツのスポーツ事情

- ドイツ人口 8,260万人
- スポーツ施設数 12万7000ヶ所
- スポーツクラブ数 8万9000団体
  
- ドイツ・スポーツ連盟(DSBS)会員数  
2,700万人(国民の3分の1)
- ドイツサッカー連盟会員数 626万人



# ドイツ人のスポーツへの考え方

- 目的

記録ではなく、体を動かす喜び  
チームプレーの楽しさ

- スポーツテストの開催

ドイツスポーツ連盟主催のスポーツテストに  
75万人が参加。(参加者には、金・銀・銅の  
バッジが授与され、人気も高い。)

# ドイツのスポーツ政策

- ゴールデンプラン

1960年、旧西ドイツオリンピック協会が、連邦、州、地方自治体に対し「保健、遊戯、レクリエーションのための施設」建設計画の勧告を行う。  
1975年に目標を達成。現在第2次計画を実施中。

- 新五州に対するゴールデンプラン

1992年、ドイツスポーツ連盟が、旧東ドイツのスポーツ施設計画を策定。  
現在、旧西・東の不均衡を是正するために実施中。

# トリム運動

- トリム運動とは  
1970年、DSBが国民スポーツ振興キャンペーンを開始。ドイツの一流企業120社、マスコミ、政府、州、市町村の官民が一体となったキャンペーン。
- 目指すもの  
「心身のバランスをとるために  
スポーツで健康・体力づくりをしよう」という運動。  
旧西ドイツでは、1960年頃から、生活面での機械化が進み、運動不足病が発生していたため、国家的キャンペーンを組み、トリム運動を繰り広げる。

# スポーツの国際交流

- 日独スポーツ少年団同時交流  
日本スポーツ少年団と、  
ドイツスポーツユースゲント(dsj)の交流
- 1974年から始まって今年で32回目
- 目指すもの
  - ・両国間の青少年が互いに交流を深め、  
相手の国や文化を理解する。
  - ・スポーツ参加意識の向上
  - ・リーダー、指導者の育成

# スポーツの国際交流(2)

- 2004年度実績
- 125名が同時交流
- 中国地域から8名が参加し、  
ザクセン・チューリンゲンホームステイ  
(2004/7/20 ~ 8/11)
- スポーツ交流や意見交換会などを実施
- ドイツからも8名が中国地方を訪れ、  
広島市にホームステイ (2004/7/20 ~ 8/10)  
その後、平和記念式典等にも参加
- 日本派遣団負担金 : 1人あたり25万円
- 地元受入経費、関係県スポーツ少年団で負担

# 私たちの提案

- 国際交流を活かしたスポーツ振興
- 総合型地域スポーツクラブの設立に向けて  
～ 各中学校を拠点に～
- クラブチームの誘致・新設  
～ スポーツに対する意識向上～



# 総合型地域スポーツクラブ

## ● 特徴

- ・ 種目の多様性
- ・ 利用する世代や年齢の多様性
- ・ 技術レベルの多様性
- ・ 指導者の充実

## ● 三次市では…

自治組織単位での設立予定

当面は、中学校区単位(12校区)での設立が目標

# 先進事例

- 愛知県半田市 成岩(ならわ)スポーツクラブ

- 目標

学校施設の地域との共同化(開放)

開かれた学校づくり、学校・家庭・地域の連携

- 内容

中学校の体育館・剣道場・グラウンドや、小学校の体育館・グラウンド等を市民に開放(4校で実施中)

平日(19:00～21:30) 土日(9:00～21:30)

# 今後の地方教育行政の在り方について

## ● 地域コミュニティの育成と地域振興

「学校や公民館は地域住民に身近な教育施設であり、地域コミュニティ形成の拠点として、重要な役割を担うことが求められる。特に、住民の日常生活圏にもっとも身近に存在する学校は、学校教育の実施という本来の機能を前提として、地域住民の生涯学習やコミュニティ活動の拠点としても、その資源を有効に活用していくことが重要である」

(中央教育審議会 1998年9月答申より)

# 私たちの提案

- 国際交流を活かしたスポーツ振興
- 総合型地域スポーツクラブの設立に向けて  
～ 各中学校を拠点に～
- クラブチームの誘致・新設  
～ スポーツに対する意識向上～

# クラブチーム誘致が目指すもの

- 市民に対して  
スポーツに対する、更なる意識の向上
- 行政に対して  
合併直後の横の繋がり強化  
(三次を誇れるものがほしい)
- 市民・行政・企業の協働体制の創造



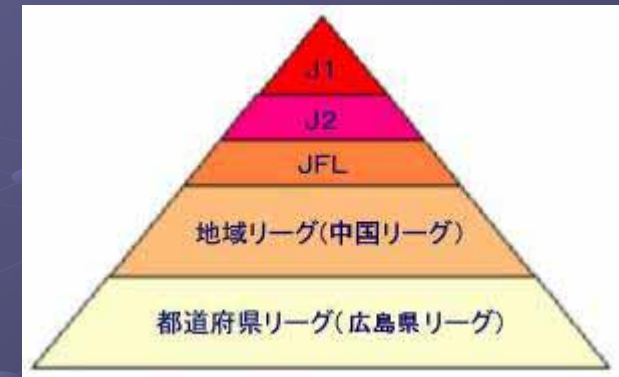
それらの結果・・・三次市の知名度向上にも

# 三次市が持っているもの

- みよし運動公園を中心としたスポーツ施設  
みよし運動公園陸上競技場：約1万人収容
- スポーツイベントの開催実績  
サッカー日本代表戦、高校総体など
- 交通アクセス：三次インターチェンジ
- 市長のスポーツに対する理解



# サッカーの運営事例に学ぶ



- 地元密着型 : 地名 + 愛称
- ピラミッド型 : 次に進むべき方向が明確
- 運営へのボランティア参加事例の多さ
- ジュニア部門の保有義務  
競技人口裾野の拡大可能性にも
- プロ活動終了後にも、活動意識の高い人材の多さ毎年100人以上引退する、プロの活躍の場にも

# 具体的な運営事例

- 愛媛フットボールクラブ(JFL所属)
  - 年間活動資金 : 約6000万円
  - スポンサー企業 : 60~80社
- 個人
  - 会費による支援 : 数千円単位から(特典も有り)
  - ボランティアによる運営、参画 : 数百名単位  
(チケットもぎり、座席誘導、警備など)
- 三次市の商工業社・・・1500社以上

# 誘致の具体的なメリット

- 企業広告  
金銭的協力だけでなく、物的協力からも可能  
三次ピオーネやきんさい米などの農林水産物の提供も
- 間接的な広告  
社会的責任を果たすことによる、  
企業のイメージアップにも貢献
- 地域活性化を通じた潤い
- 働き手の増加、地域の賑わい  
(ザスパ草津の例)

# スポーツ健康日本一の実現へ

## 私たちの3つの提案



- 市民のスポーツ参加
- 健康で、長生き
- 一流のアスリートの創出
- 学校を中心とした、コミュニティーの形成
- 総合型地域スポーツクラブの設立